

全国学力・学習状況調査の結果より

校長 相川 保 敏

6年生が4月下旬に参加した本年度の全国学力・学習状況調査の結果が分かりましたので、概要を報告させていただきます。

本年度の学力調査は、国語、算数で行われました。国語では「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」、算数では「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」、の全ての項目において、全国平均を上回っていました。総合的に見ても、全国の平均正答率よりも国語13.6ポイント、算数12.3ポイント高い成績となっています。単純には比較できませんが本校の昨年度結果と比べると、国語1.4ポイント、算数5.6ポイント高くなっています。子どもたちの頑張りとともに、それを支えた保護者の方や教職員の取り組みがこうした結果を生んだものと考えます。

次に、学習状況調査(質問紙)の結果です。まずは、本校が大切と考える、これからの時代に必要とされる3つのコンピテンシーに結びつく主な項目の結果を紹介します。(数値は「当てはまる」と回答した割合を全国平均と比較して示しています。)

自ら課題を見つけ、解決に向けて行動できる力

- ・5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいきたいと思いますか+5.5
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか+15.2

自分の力だけでなく、協働的な学びの力を生かした問題解決を図っていることがわかります。

社会・世界に関わり、よりよい人生を送る力

- ・外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか+13.2
- ・人が困っているときは、進んで助けていますか+8.6

SDGs達成に向けた取り組みが必要とされる中で、多様性を認め、世界の人々と助け合い協力していく素地が育まれていると言えます。

他者と協働してよりよい社会・世界を形成する力

- ・あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級

会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか+19.5

- ・学級活動における学級での話し合いを生かして、自分がすべきことを決めて取り組んでいますか+12.4

自分の所属する集団を改善し、自分の役割をとらえ行動していこうとする、意識の高さがうかがえます。

こうした数値は年度によって変動しますが、全国に比べ高い傾向が長年にわたって続いており、これからの時代に必要な3つのコンピテンシーの基礎が、本校の教育の中で着実に培われていると考えます。

一方で、質問紙調査から気になる点も見られます。

- ・朝食を毎日食べていますか-7.3
- ・毎日、同じぐらいの時刻に寝ていますか-7.5
- ・毎日、同じぐらいの時刻に起きていますか-5.1

と全国平均より低くなっています。また、昨年度の本校の結果よりも悪くなっています。一般的に、こうした生活習慣が確立されている子は、学力が高くなると言われています。生活習慣の改善は学校だけでは不可能です。ご家庭のご協力をぜひお願いいたします。

さて、10月の月目標は、「協力のしかたを考えよう」です。協力するにあたって、何となく言われたことを手伝ってあげるだけでなく「何のために協力するのか」「どんなことを協力できるのか」などを自分で考えることが大切だと思います。協力は、「される側」に大きなメリットがありますが、しっかりと「自分の考え」をもつことで、他の考えとの共通点や相違点を学び、自分の考えを広げたり深めたりできるという「する側」にも大きなメリットが期待できるからです。本校の子どもたちは、協働する取り組みを得意にしています。子どもたち自らが、協力・協働していく対象を、友達、学級、学校、地域社会、さらには世界の国々へと広げていけるように、様々取り組まれている活動の充実を図れるようにしていきたいと考えています。

